

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社マルコー商会(仮称)富士見	階数	地上2F
建設地	愛知県豊橋市富士見町269番2 他2	構造	S造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	40 人
気候区分	6地域	年間使用時間	4,000 時間/年
建物用途	事務所,工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年7月 予定	評価の実施日	2016年8月1日
敷地面積	20,277 m <sup>2</sup>	作成者	多羅間 次郎
建築面積	6,091 m <sup>2</sup>	確認日	2016年8月1日
延床面積	6,612 m <sup>2</sup>	確認者	渡辺 孝一



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.5** ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

標準計算: 30%☆☆☆☆ 60%☆☆☆☆ 80%☆☆☆☆ 100%☆☆☆☆ 100%超:☆☆☆☆

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値: 100% (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

②建築物の取組み: 91%

③上記+②以外の: 91%

④上記+: 91%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q1 室内環境: 3.1

Q2 サービス性能: 3.3

Q3 室外環境(敷地内): 3.0

LR1 エネルギー: 3.5

LR2 資源・マテリアル: 4.0

LR3 敷地外環境: 3.2

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.1**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.1

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.0

**LR のスコア = 3.5**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.5

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 4.0

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

### 3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p>3.3</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p>3.0</p>	<p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>27.2 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p>3.6</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p>1.0</p>	<p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</p> <p>なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化  
Q-3 1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用  
Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4)地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積} + \text{附属物面積}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	全体
<b>Q 建築物の環境品質</b>								
<b>Q1 室内環境</b>								
<b>1 音環境</b>								
1.1 騒音				3.2	0.15		-	3.2
1.2 遮音				3.0	0.40		-	3.1
1 開口部遮音性能				3.0	0.40		-	
2 界壁遮音性能				3.0	0.60		-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	0.40		-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	-		-	
1.3 吸音		2F休憩室において床:タイルカーペット、天井:DR		4.0	0.20		-	
<b>2 温熱環境</b>								
2.1 室温制御				3.0	0.35		-	3.0
1 室温				3.0	0.50		-	
2 外皮性能				3.0	0.38		-	
3 ゾーン別制御性				3.0	0.25		-	
2.2 湿度制御				3.0	0.38		-	
2.3 空調方式				3.0	0.20		-	
<b>3 光・視環境</b>								
3.1 昼光利用				3.1	0.25		-	3.1
1 昼光率				3.0	0.30		-	
2 方位別開口				3.0	0.60		-	
3 昼光利用設備				3.0	0.40		-	
3.2 グレア対策				3.0	0.30		-	
1 昼光制御				3.0	1.00		-	
3.3 照度		500lx		4.0	0.15		-	
3.4 照明制御				3.0	0.25		-	
<b>4 空気質環境</b>								
4.1 発生源対策				3.2	0.25		-	3.2
1 化学汚染物質				3.0	0.50		-	
4.2 換気				3.0	1.00		-	
1 換気量				3.0	0.30		-	
2 自然換気性能				3.0	0.33		-	
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.33		-	
4.3 運用管理				4.0	0.20		-	
1 CO <sub>2</sub> の監視				3.0	0.50		-	
2 喫煙の制御		全面禁煙		5.0	0.50		-	
<b>Q2 サービス性能</b>								
<b>1 機能性</b>								
1.1 機能性・使いやすさ				-	0.30		-	3.3
1 広さ・収納性				3.4	0.40		-	3.4
2 高度情報通信設備対応				3.0	0.40		-	
3 バリアフリー計画				3.0	0.33		-	
1.2 心理性・快適性				3.0	0.33		-	
1 広さ感・景観		休憩室天高2.7m		4.0	0.30		-	
2 リフレッシュスペース		休憩室あり		5.0	0.33		-	
3 内装計画				4.0	0.33		-	
1.3 維持管理				3.0	0.33		-	
1 維持管理に配慮した設計		設計上ホコリの溜まりにくい設計にしている。		3.5	0.30		-	
2 維持管理用機能の確保				4.0	0.50		-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>								
2.1 耐震・免震				3.1	0.31		-	3.1
1 耐震性				3.0	0.48		-	
2 免震・制振性能				3.0	0.80		-	
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	0.20		-	
1 躯体材料の耐用年数				3.3	0.33		-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	②			3.0	0.23		-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.23		-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.09		-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.08		-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		給水管:塩ビ銅管→B、給湯管:銅管→D、雑排水管:塩ビ管→B		5.0	0.15		-	
2.4 信頼性				3.0	0.23		-	
1 空調・換気設備				3.2	0.19		-	
2 給排水・衛生設備		井水、中水を利用		3.0	0.20		-	
3 電気設備	②			4.0	0.20		-	
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20		-	
5 通信・情報設備				3.0	0.20		-	
<b>3 対応性・更新性</b>								
3.1 空間のゆとり				3.3	0.29		-	3.3
1 階高のゆとり				4.0	0.31		-	
2 空間の形状・自由さ		2階階高3.8m 壁長さ比率0.281		4.0	0.60		-	
3.2 荷重のゆとり				4.0	0.40		-	
3.3 設備の更新性				3.0	0.31		-	
1 空調配管の更新性				3.2	0.38		-	
2 給排水管の更新性				3.0	0.17		-	
3 電気配線の更新性				3.0	0.17		-	
4 通信配線の更新性				3.0	0.11		-	
5 設備機器の更新性				3.0	0.11		-	
6 バックアップスペースの確保	②	バックアップスペース、メンテナンスあり		3.0	0.22		-	
				4.0	0.22		-	

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	
		<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>						-
1 生物環境の保全と創出	独自③			3.0	0.30		-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮	独自④			3.0	0.40		-	3.0
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>				3.0	0.30		-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④			3.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50		-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>				-	-	-	-	3.5
<b>LR1 エネルギー</b>				-	0.40	-	-	3.5
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI=0.727		5.0	0.03		-	5.0
2 自然エネルギー利用				3.0	0.27		-	3.0
<b>3 設備システムの高効率化</b>				4.1	0.42		-	4.1
集合住宅以外の評価(3a.3b)		設備の高効率化を図る		4.1	1.00		-	
集合住宅の評価(3c)					-		-	
<b>4 効率的運用</b>				3.0	0.28		-	3.0
集合住宅以外の評価				3.0	1.00		-	
4.1 モニタリング				3.0	0.50		-	
4.2 運用管理体制				3.0	0.50		-	
集合住宅の評価					-		-	
4.1 モニタリング					-		-	
4.2 運用管理体制					-		-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>				-	0.30	-	-	4.0
<b>1 水資源保護</b>				4.6	0.15		-	4.6
1.1 節水		節水型機器+節水コマ		4.0	0.40		-	
<b>1.2 雨水利用・雑排水等の利用</b>				5.0	0.60		-	
1 雨水利用システム導入の有無				-	-		-	
2 雑排水等利用システム導入の有無		雑排水を利用		5.0	1.00		-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>				4.0	0.63		-	4.0
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.25		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	② 独自	電炉鉄筋		5.0	0.21		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		ビニル床タイル(2品目)、ビニル床シート		5.0	0.21		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				-	-		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自	OAフロア		4.0	0.25		-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>				3.6	0.22		-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32		-	
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>				4.0	0.68		-	
1 消火剤				-	-		-	
2 発泡剤(断熱材等)		発泡剤を用いた断熱材の使用無し。		5.0	0.50		-	
3 冷媒				3.0	0.50		-	
<b>LR3 敷地外環境</b>				-	0.30	-	-	3.2
<b>1 地球温暖化への配慮</b>				3.3	0.33		-	3.3
①		ライフサイクルCO2概算値:91%		3.3	0.33		-	
<b>2 地域環境への配慮</b>				3.1	0.33		-	3.1
<b>2.1 大気汚染防止</b>				3.0	0.25		-	
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>				3.0	0.50		-	
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>				3.7	0.25		-	
1 雨水排水負荷低減	独自			3.0	0.25		-	
2 汚水処理負荷抑制		下水本管に生活排水を流さず、施設内水処理で散水利用		4.0	0.25		-	
3 交通負荷抑制	独自			3.0	0.25		-	
4 廃棄物処理負荷抑制		ゴミ置き場有り		5.0	0.25		-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>				3.2	0.33		-	3.2
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>				3.0	0.40		-	
1 騒音	独自			3.0	0.50		-	
2 振動	独自			3.0	0.50		-	
3 悪臭				-	-		-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制</b>				3.0	0.40		-	
1 風害の抑制				3.0	0.70		-	
2 砂塵の抑制					-		-	
3 日照障害の抑制				3.0	0.30		-	
<b>3.3 光害の抑制</b>				4.4	0.20		-	
1 屋外照明及び屋内照明の立ち外に漏れる光への対策		広告照明なし		5.0	0.70		-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30		-	

**重点項目スコアシート**

実施設計段階

■ 使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2014年版+あいち版手引き

株式会社マルコー商会(仮称)富士見リサイクルセンター新築

■ 評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2014(v.2.0)\_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>3.3</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.3	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>3.6</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	3.1	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.3	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	4.0	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>3.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.12	外構緑化:27.23%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>			(評価ポイント)	<b>1.0</b>
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■ 重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	周辺環境に配慮した建物計画(デザイン・スケール・緑化計画)・設備計画(光害対策)を行った。室内環境としては、十分な天井高の確保、リフレッシュスペースの確保を行い、居住者に対して配慮した計画としている。
Q1 室内環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内装材の仕様により、吸音性能を確保</li> <li>・十分な机上面照度を確保</li> <li>・建屋全館、全面禁煙</li> </ul>
Q2 サービス性能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リフレッシュスペースの確保</li> <li>・十分な天井高さの確保</li> <li>・清掃面に配慮した内装(埃等の溜まりにくい計画)</li> <li>・更新性を考慮した配管材の選定</li> <li>・井水、中水を利用している。</li> </ul>
Q3 室外環境(敷地内)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緑化面積の確保</li> <li>・周辺環境に応じた適切な緑地づくりを行っている。</li> <li>・周辺の景観に応じた、建物デザイン・スケール</li> </ul>
LR1 エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建築外皮性能の確保</li> <li>・設備の高効率化(照明・空調)</li> <li>・運用管理体制の確保</li> </ul>
LR2 資源・マテリアル	<ul style="list-style-type: none"> <li>・節水器具の採用</li> <li>・OAフロアの採用</li> <li>・地盤改良材の採用</li> <li>・GWP,ODPIに配慮した断熱材仕様の選定</li> </ul>
LR3 敷地外環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ライフサイクルCO2の削減</li> <li>・廃棄物負荷抑制への配慮</li> <li>・ゴミ置き場の設置</li> <li>・周辺環境に対する光害の抑制対策</li> </ul>
その他	